

学校法人三育学院

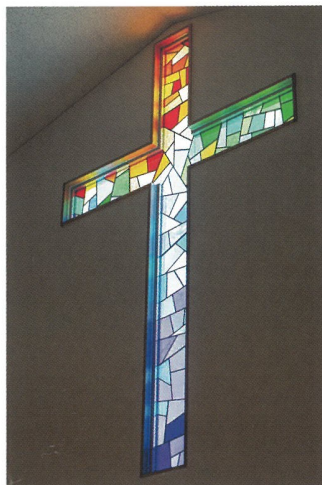


沖縄三育中学校

「神に仕え、人に奉仕する人物の育成」



沖縄三育中学校の 「神に仕え、人に奉仕する人物」を育む教育



沖縄三育中学校は、キリスト教主義の全寮制の学校です。すべての教育活動において、イエス・キリストが私たちの罪のために自ら十字架に架かってくださった生き方に倣って、「隣人愛」を意識したカリキュラムを設置しています。人の喜びを喜び、痛みを共に痛み、互いに励まし合いながら切磋琢磨する経験を通して、子どもたちは大きく成長します。本校で学ぶ生徒たちは、神様から与えられた大切な存在であり、一人ひとりに与えられた能力を、人の喜びを作り出すために用いることができるように育てていくことが、本校の使命であると考えています。

文部科学省は、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力として「生きる力」を身に付けてもらえるように教育の中身を変えてきています。これからは知識や技能を身につけるだけではなく、それを使って社会変革を起こすことができる資質能力を育成していくことを学校に求めています。しかし、この資質能力を育成することは簡単なことではないのです。教室中心の学習だけでは育成することができませんし、学んだことを実際の場面で活かす体験をするために多くの時間が必要なのです。

さて、沖縄三育中学校では、創立当初からこの資質能力を育成することに力を注いできました。そして、長い年月を掛けて育成するための教育の中身と方法をつくって、本校に入学した子どもたちに提供できるように用意しています。このパンフレットではそんな教育の一端を皆さんに紹介したいと思います。



三育教育とは・本校の教育目標

真の教育は、人間の全存在をもってあたるべきであり、また人間に可能な限りの生存期間に全体にわたるものである。それは身体的、知的、霊的能力の調和ある発達を意味している。

エレン・G・ホワイト著『教育』P.2

「三育」という言葉は一般に知・徳・体の三つの教育という意味で使われています。その歴史は古く、すでに明治時代から使われている言葉です。しかし、本校が標榜する三育教育は一般のそれとは大きく異なった理念に基づいています。聖書を土台とした教育であり、さらに、以下の3点を強調する全人教育(Wholistic Education)の実践をさせています。

- 1 真の教育は人間存在の「全体」あるいはすべてを強調しなければならない。
- 2 真の教育は、単に知的、霊的、身体的、社会的または職業的面に焦点を当てるのではなく、人間存在のすべての面の開発を目指す必要がある。
- 3 人生における最大の歓喜と最高の教育は「奉仕の(Serve)」の中にある。
奉仕の喜びは教育課程の中心に位置するものである。

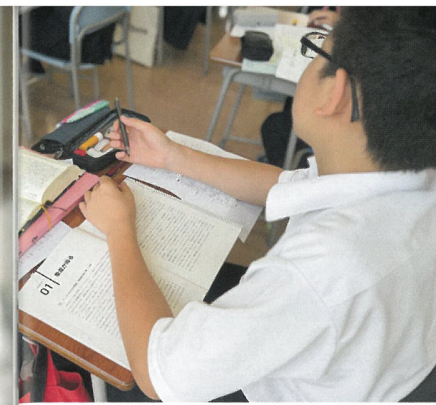
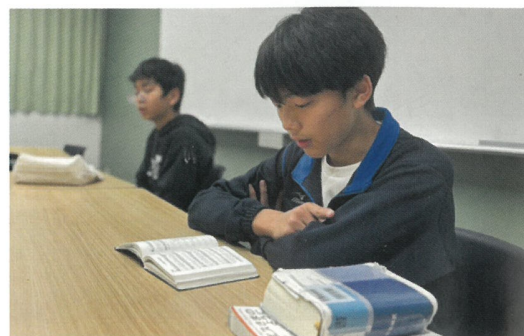




キリスト教教育

人生の土台を築く、聖書の教え。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」と聖書の神様は私たち一人一人に語られます。聖書の学びを通して愛されていることを学び、その愛を分け与える人物へと成長します。



聖書を学び、 人生の土台を築く

毎朝・毎夕の礼拝、そして日々の授業での聖書の学び。これらは、多感な中学生の時期に「揺るがない価値観」という人生の土台を築くための大切な時間です。聖書の教えを通して自己と向き合い、豊かな人間性を育みます。

はじめは何も分からなくても大丈夫。先輩たちの温かいサポートの中で、安心して学びを深めることができます。

祈り、支え合える 友との出会い

「祈ること」は、誰かを深く「愛すること」そのものです。嬉しい時も悩める時も、仲間のために祈り、互いに祈り合う。本校にはそんな温かい日常があります。祈りを通して相手を思いやる豊かな心が育まれ、生徒たちは深い絆で結ばれていきます。



生徒が主体の聖書研究

金曜日の夜は各寮で、平日は小グループで聖書の学びを深めています（希望者のみ）。先生ではなく、上級生が司会進行を行い、下級生を優しくリードします。一週間を振り返り、時には素直な悩みを打ち明けて共に祈ることもあります。み言葉から学び、自分の弱さとも向き合うこの静かな時間が、生徒たちを人として大きく成長させていきます。



寮教育

24時間すべてが、全人教育のステージ

学びの場は教室ではありません。食事の作法、清掃の分担、夜の語らい。生活のあらゆる場面に、知育・徳育・体育・聖育の教えが息づいています。寮監や仲間と寝食を共にし、全人格的に関わり合う中で、知識だけではない「生きる力」そのものが磨かれていきます。



「共に生きる」 磨かれる、真の人間性。

寮生活は、親元を離れ、バックグラウンドの異なる仲間たちと「一つの家族」になっていくプロセスです。共に食事を囲み、時には夜遅くまで語り合い、ぶつかり、助け合う。その一分一秒が、自立心と思いやりを育むかけがえない学びの時間となります。

卒業する頃、ここでの日々は「苦楽を共にした絆」となり、これからの人生を支える揺るぎない自信へと変わっているはずです。

自分たちの手で創る、 理想の共同体

寮は単に与えられた居場所ではなく、生徒一人ひとりが「市民」として参加する小さな社会です。行事の企画から日々のルールの運用まで、自分たちで知恵を出し合い、責任を持って運営します。この自治の経験こそが、将来社会をより良く変えていくためのリーダーシップと主体性を育みます。



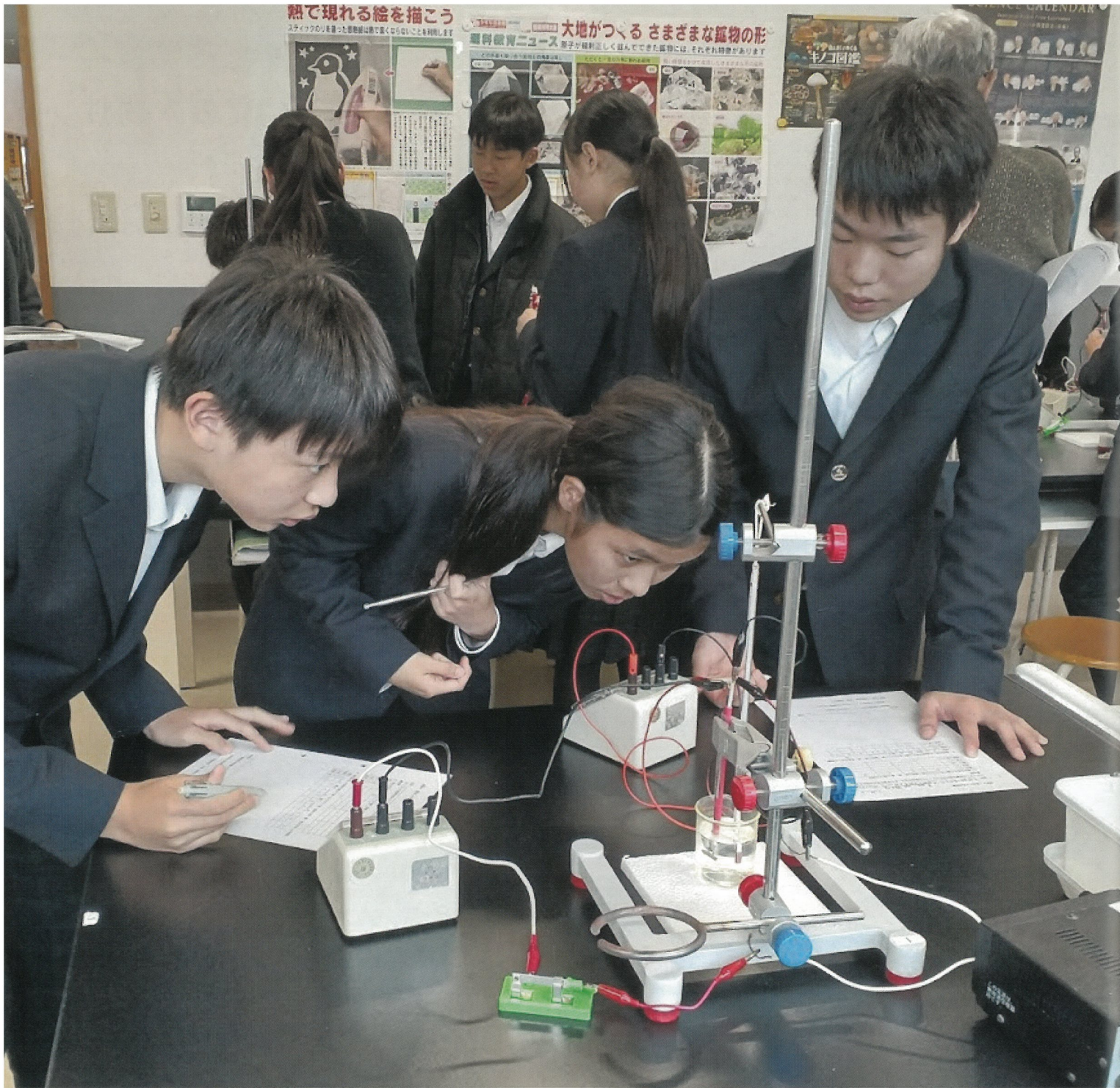
社会への助走、自分を律する「訓練寮」

「自由」を真に楽しむためには、自分を律する「自律」が必要です。整理整頓、時間の管理、そして礼儀。訓練寮としての厳しさは、決して縛るためのものではなく、自立した大人として社会へ羽ばたくための確かな土台作りです。ここで身につけた生活習慣は、一生の財産となります。

違いを「豊かさ」に変える対話の技術

育った環境も考え方も異なる仲間との共同生活では、時には意見の食い違いも生まれます。しかし、それを避けるのではなく、対話を通じて解決策を見出していくプロセスに教育の本質があります。

自分とは違う視点を受け入れ、折り合いをつける力は、多文化共生社会を生き抜く「真の知性」となります。



学びの環境

安心して学べる環境があります。生徒が主体的に学びへ向かえるよう、静かで集中しやすい教室づくりと、いつでも学習に集中できる場所、そして相談しやすい支援体制の提供を大切にしています。



教員による個別指導

一斉授業で理解できなかった内容は、時間外に個別補習やグループ学習を通して確実な理解と学習の定着を目指します。

授業以外に週10時間の 自学自習で学力を確実に伸ばす

朝1時間目の50分、夜に70分の自習時間を設け、宿題や個別の学習課題を行います。
友人と切磋琢磨しながら共に学びを深めていく時間は貴重です。



授業・学習



自ら問い、深く学ぶ。

生徒が自ら問いを立て、試行錯誤しながら学びを深める力を育てます。失敗も成長の一部として受け止め、主体的に学ぶ姿勢を大切にします。

学校の使命「神に仕え人に奉仕する」人物を育てるために、学力を身につけ、努力する姿勢を養います。中学時代に学んだことや探求心を用いて、将来は社会の中でサーバントリーダーとして他者を支える人物となることを目指します。



日頃から寮生活を通して培った仲間との協働学習。
分からない問題を一緒に考え、解決法を探していきます。
共に学ぶことのできる仲間がいるから学習が楽しくなります。



協働学習

労作教育

三育の原点、ここにあり。

私たちが大切にしている「労作（ろうさく）」の時間。それは、単に体を動かす作業ではありません。土に触れ、汗を流し、仲間と協力して一つのことを成し遂げる。自分の手を使って五感で学ぶこの体験こそが、教科書だけでは得られない「生きた学び」となります。生徒たちは日々の作業を通して、作物を育てる大変さや、環境を整えることの心地よさを実感します。そこから生まれるのは、豊かな感性と、周囲への深い感謝の心。そして、自ら進んで動き、社会に貢献しようとする「働くこと」への確かな意欲です。

小さな社会の担い手として、
今、自分にできることを。

社会を支える「働く」という営み。それは、人として当たり前で、何より尊いことです。

キャンパスを一つの社会に見立て、生徒たちは汗を流して働きます。

どの働きも欠かせないものだということ、他者への感謝と、社会の一員としての自覚が芽生えます。

手を使う。
知恵を絞る。
技術が身につく。

掃除、洗車、農作業、そして動画編集。一見バラバラに見えるこれらの活動には、共通する「学び」があります。それは、道具を使いこなし、工夫して、形にするという「働く技術」です。

中学3年間で触れる多彩な体験が、生徒たちの可能性を大きく広がります。





地域貢献

誰かの笑顔のために、
自分ができること。

ビーチクリーンや地域の清掃、シーク
ワサー園のお手伝いなど。「自分たちに
できることは何だろう？」と自ら考え、
行動するのが本校のスタイルです。

誰かの役に立つ喜びを積み重ねること
で、自分を大切にするのと同じように、
周りの人を思い、奉仕できる、しなやか
で強い心を育てます。



ソアン沖縄

日曜日の午後は、
街全体がキャンパス。

「ソアン」の時間は、教室を飛び出して地域の中へ。県内の学習施設
を訪ねたり、実際の現場で職業体験をしたり。

地域の方々と触れ合い、本物の風景の中で学ぶ体験は、驚きと発見
の連続です。街のあちこちに、生徒たちの好奇心をくすぐる「生きた
教材」が待っています。





自然体験学習 遊べる子どもは伸びる！

与えられる遊びから、自ら創り出す遊びへ。便利な「モノ」に囲まれた現代だからこそ、私たちは自然の中での生きた体験を大切にしています。

大自然という教科書から学び、五感をフルに動かして挑戦する。そのプロセスで得られる気づきや感動が、子どもたちの内なる「生きる力」を力強く呼び覚まします。



答えのない問いに 向き合う、 たくましい人間性の育成

「生きる力」と、自ら課題を見つけ、考え、より良い解決策を導き出す力のこと。思い通りにならない大自然の中で工夫し、仲間と協力する経験は、まさにこの力を鍛える最高の舞台です。

自らを律し、他者を思いやる豊かな人間性。そして、自然の中を駆け回ることによって培われるたくましい身体。本校の自然体験活動は、未知の時代を生き抜くための「生きる力」そのものを育みます。



やんばるで 「遊び、学ぶ」3年間

やんばるの森に抱かれた美しいキャンパスの周辺には、海や山、川といった豊かな「自然のフィールド」が広がっています。本校ではこの恵まれた環境を最大限に生かし、週に1回の自然体験活動を実施しています。

さらに、離島でのウォークラリーや、1・2年生対象のネイチャーキャンプなど、特別な行事も充実。「神様が創られた自然を教科書にして、遊び、学ぶ」——そんな充実した3年間を送ります。



五感を揺さぶる体験が、 心と体の「バランス」を整える

画面越しではない、本物の自然が持つ力。やんばるの森で五感を駆使し、リアルな自然とふれあう中で、生徒たちは身体の使い方を学び、人間本来のバランス感覚を取り戻していきます。

寮から見える朝焼けや星空、木々に潜む小さな命に目を輝かせる日々。それらは一生の財産になることでしょう。その生きた体験の積み重ねが、知的好奇心と命を尊ぶ優しい心を育てていきます。



音楽教育

響き合う心、奏でる未来。

—— 音楽を通じて「共に生きる」を学ぶ ——



本校の音楽教育は、単なる技術の習得を目指すものではありません。聖歌隊や吹奏楽部、ハンドベル……仲間と音を重ねるすべての瞬間が、他者を思いやり、自己を律する「全人教育」の場となっています。

自分の音を聴き、隣の音を聴き、一つのハーモニーを創り上げるプロセスは、まさに寮生活で育む「家族としての歩み」そのもの。祈りと共に奏でられる音色は、生徒たちの感性を豊かに耕し、世界とつながる確かな力へと変わっていきます。

生活のすべてが、ハーモニーになる。

—— 寮生活と音楽が紡ぎ出す、豊かな人間教育 ——

本校において、音楽は独立した教科である以上に、共に生きるための「大切な作法」です。寮で家族のように過ごす日々があるからこそ、アンサンブルの響きはより深く、温かくなります。専門教育として技術を競い合うのではなく、仲間を励ますために奏で、祈りのために歌う。そんな日常の積み重ねが、生徒たちの心を穏やかに整え、互いを尊重し合う文化を形作っています。教室、寮、そして音楽。そのすべてが調和した環境の中で、生徒たちは「調和の中で生きる喜び」を自然と学んでいきます。

吹奏楽部



響き合う歌声、心からの祈り

自分の身体ひとつで奏でる「声」は、世界にひとつだけの楽器です。異なる音域の歌声が重なり合い、美しいハーモニーへと昇華される聖歌隊の活動は、他者を尊重し、心を寄せることの大切さを教えてくれます。チャペルに響く透明感あふれる歌声は、聴く人の心に寄り添い、歌う者同士の絆を神聖な響きの中で深めていきます。

個の技術が、 壮大な響きになる時

木管、金管、打楽器。異なる特性を持つ楽器が、互いの音を聴き合い、絶妙なバランスで混ざり合う。それはまさに「小さな社会」の縮図です。一人ひとりが自分のパートに責任を持ち、指揮者に心を合わせることで生まれる力強いサウンドは、目標に向かって粘り強く努力する精神と、深い一体感を教えてくれます。



聖歌隊

一音の責任、と繋ぐ思い

一人が数音ずつを担当し、全員でひとつのメロディを紡ぎ出すハンドベル。誰か一人が欠けても、タイミングがずれても曲は完成しません。自分の担当する音に責任を持ち、仲間の呼吸を感じながらベルを演奏することは、「信頼」を育みます。



ハンドベル

自分自身と向き合い、唯一無二の音を紡ぐ

楽器、あるいは自らの身体という「唯一無二の楽器」と一対一で向き合う時間は、自分の内面を深く見つめ、表現の可能性を広げる探求の旅です。専門の講師との対話を通じて磨かれる一音一音は、日々の地道な積み重ねが「自信」へと変わるプロセスそのもの。ここで培われた豊かな感性と、理想の音を求めて妥協せず努力し続ける姿勢は、音楽の枠を越え、人生を支える確かな力となります。



個人レッスン



プロジェクト学習

社会を生き抜く「自覚」と「責任」を育む

沖縄三育中学校の学びの中心は、生徒が主役となって動かす「プロジェクト学習」です。これは、実社会と同じように「自ら課題を見つけ、解決していく（問題解決学習）」プログラムです。生徒は自分たちで企画を立て、必要な予算を計算し、先生たちの前で情熱を込めてプレゼンテーションを行います。学校から正式な「OK（承認）」をもらって初めて、自分たちの手で物事を動かしていく。このプロセスを通じて、生徒たちは「一人の大人」として扱われる自覚を持ち、自分の行動に最後まで責任を持つ大切さを学んでいきます。



夢プロジェクト

ー「やってみたい」から将来を描くー

自分のやってみたいことにトコトン挑戦できるのが「夢プロジェクト」です。「自分のスキルを磨きたい」という挑戦でも、「誰かを笑顔にしたい」という企画でも構いません。実現のために必要な「資金」や「プロの技術」を学校にバックアップしてもらうため、生徒自らプレゼンテーションを行い、承認を勝ち取ります。「自分のために頑張る。誰かのために汗をかく。」そのすべてが、一生モノの経験になります。



PM（PLANNING & MANAGEMENT TEAM）

ー「与えられる感動」から「共に創る喜び」へ。ー

体育祭や文化祭などの行事をプロデュースする運営チームです。単に案を出すだけでなく、円滑に物事を進めるための「会議の運営スキル」を磨き、予算管理や外部への協力依頼まで実務を担います。

また、行事が終わって「やりっぱなし」にせず、成果や課題をまとめた「振り返りの報告」まで責任を持って行うことが求められます。この徹底したプロセスが、社会で信頼される大人としての土台を作ります。



探究学習(ゼミ)

「好き」を専門的な「知恵」へ。

2026年度は、教職員の高い専門性を活かした「10のゼミ」が開講されます。生徒は自分の興味があるテーマを選び、その道を専門的に突き詰めます。

先生は「教える人」というより、共に答えを探す「頼れるパートナー」。専門的な知恵に触れながら深く学ぶ時間は、他の学びの質も高めてくれます。





学校行事

一生モノの絆を築く、生徒主体の行事。

本校の学校行事は生徒が中心。企画や運営は生徒たちのプロジェクトチームが担います。

最大の魅力は、学年や男女の壁を超えて全校生徒が一つになれること。力を合わせて行事を創り上げるプロセスの中で、互いを思いやる心が育ち、生徒たちの仲はどこよりも深く結ばれていきます。



前期

- 4月 入学式
新入生歓迎球技大会
授業参観
- 5月 修学旅行
ネイチャーキャンプ
- 6月 祈禱週
広島見学ツアー
- 6月 授業参観
- 7月 夏祭り
- 8月 夏休み
- 9月 祈禱週
平和学習
バレーボール大会

後期

- 10月 秋休み
体育祭
- 11月 マラソン大会
学習発表会・音楽発表会
AO・推薦入学試験
- 12月 クリスマスバケット
クリスマスコンサート
冬休み
- 1月 入学試験
卒業祈禱週
ウォークラリー
- 2月 ファイナルコンサート
- 3月 卒業式

【全国の三育教育機関】

三育学院大学・三育学院カレッジ（千葉県夷隅郡）

広島三育学院中学校・高等学校（広島県三原市）
三育学院中等教育学校（千葉県夷隅郡）

函館三育小学校・久慈川三育小学校・光風台三育小学校
東京三育小学校・横浜三育小学校・広島三育大和小学校
広島三育学院小学校・鹿児島三育小学校・沖縄三育小学校

札幌三育幼稚園・函館三育認定こども園・横浜三育幼稚園
シャローム三育保育園・広島三育学院幼稚園
鹿児島三育認定こども園・石川三育保育園



三育学院大学



広島三育学院

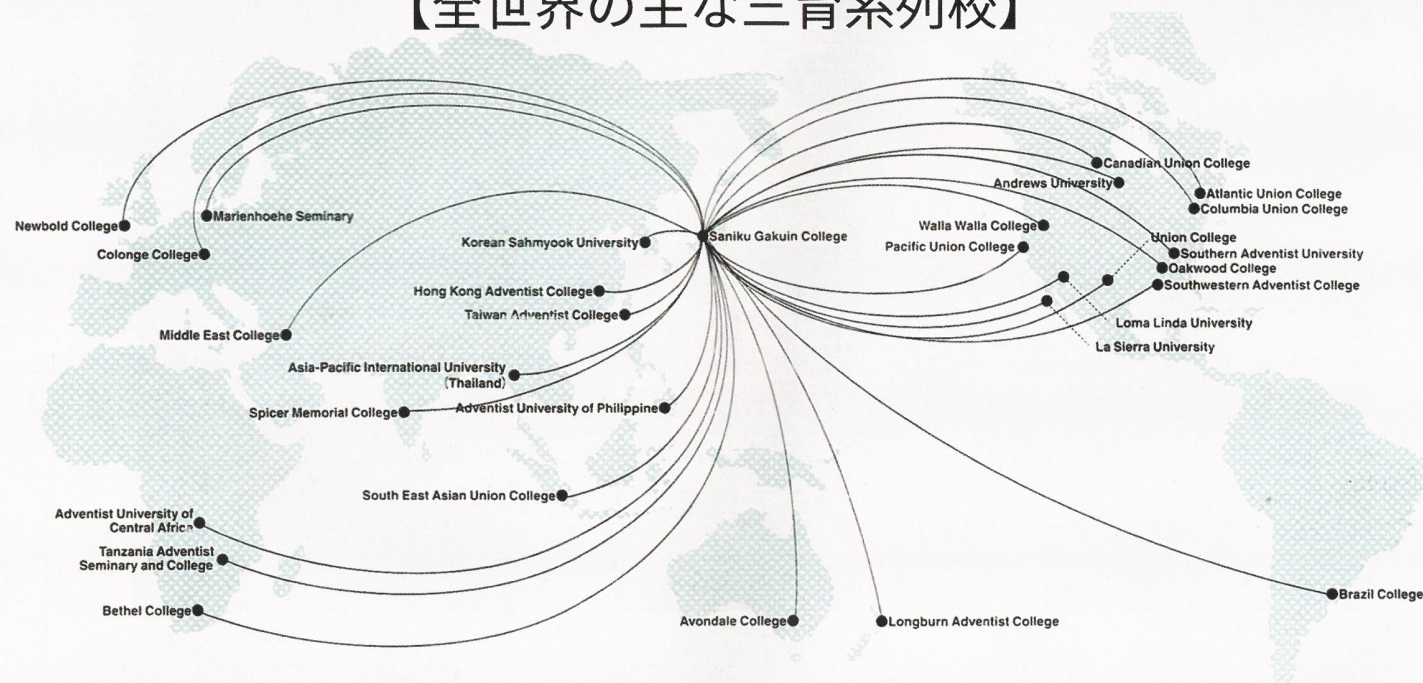


沖縄三育小学校



石川三育保育園

【全世界の主な三育系列校】



119 の大学
168,314 人の学生
13,713 人の教員

2,548 の中学・高校
575,881 人の生徒
40,747 人の教員

6,106 の小学校
1,130,026 人の児童
51,035 人の教員

【設置母体のセブンスデー・アドベンチスト教会は】

教会数
86,756 堂

教会員数
20,727,347 人

※ 出典：「2019 ANNUAL STATISTICAL REPORT」 三育教育ポータルサイトより

制服



【創立の歩み】

戦後まもない1950年、宣教師ジェンソン牧師家族の情熱的な活動により、沖縄での教育事業が動き出しました。学校認可が困難だった時代、神の導きによって1953年に沖縄初の私立校として佐敷小学校が開校。最初の教師・大城トヨ子は、三育学院で学んだ人間教育の理念を胸に、認可と同時に教育の場へと備えられました。

翌1954年、首里教会内に沖縄ミッション中学校（現・沖縄三育中学校）が教師2名、生徒21名で産声をあげました。以来70余年、全島の祈りと支援に支えられ「神様の建てられた学校」として歩んできた同校は、これからも教会・家庭・同窓生と共に、主への信仰を掲げ「キリストに出会う幸せ」を体現すべく邁進していきます。

【沿革】

1954年5月

那覇市首里赤平に沖縄ミッション中学校として開校

1957年4月

佐敷村下代原へ移転 三育小学校と併設

1969年6月

現在の名護市旭川に移転 全寮制実施

2014年5月

創立60周年を迎える

2018年4月

学校法人沖縄三育学院から
三育学院へ改組

2021年10月

新校舎竣工

2024年6月

創立70年目 県内で一番歴史のある私立中学校



1969年 名護に移転・開校当時の教職員と生徒・キャンパス



1983年 教室棟・チャペル完成



2021年10月 新校舎完成
アトリウム・オープン図書室



〒905-0003
 沖縄県名護市字旭川837
 電話 0980-52-3942
 FAX 0980-52-2934

